

FM アスモ 放送内容

本日は冬の水道管の凍結対策について、一関市 水道課 さんにお話を伺います。

Q 先ずは、12月に入り、寒さが本格的になるこれからの時期、非常に心配なのが水道管の凍結ですね。

A はい。水道管は気温が氷点下4℃以下になると凍結をはじめます。水道水をご利用の時間帯はさほど心配ないと思われませんが、夜間や日当たりの悪い場所にある水道管、寒気の入る床下、風当たりの強い場所などでは、気温が0℃前後でも凍結することがありますので、そういった場所では特に注意が必要です。

Q 一関市では、寒さに対してどのような対応を行っていますか？

A 一関市水道課では、給水管の工事をおこなう際に、一関市の寒さに適した工法での施工を指導しております。

たとえば「水抜き栓」と言って「水道管から水を抜くための栓」の設置や、地面からの立ち上がり部分の配管などに「保温材」を施工するなど、一定の凍結対策をしております。しかし、せっかく施工したこれらの工法も利用の仕方や操作方法次第では、凍結してしまうおそれがあるので注意が必要です。

Q そうしますと、水道管も冬を乗り切るための準備が必要だということのようですが…、それでは凍結させないためには、どのようにすればよろしいでしょうか。

A はい、まずは自分が住んでいる「おうち」にどのような凍結防止器具が設置されているか、また何処にあるかなどについても確認しておくことが必要です。

一般的な凍結対策のひとつとして、まずは保温用のヒーター線があります。

水道管に保温用のヒーター線が設置されている場合は、この時期になりましたら、ヒーター線のプラグをコンセントに差し込んでください。そうすることで水道管を温め凍結を防止することができます。

Q 注意しなければならないことはありますか？

A 注意しておきたいのがヒーター線の故障です。

簡単な動作確認について一つ紹介しておきますが、朝一番に蛇口を開けたときの水道水が、ぬるく感じるようであれば正常に機能しているものと思われれます。逆に、つめたく冷え切った状態の場合は、故障の可能性が考えられますので専門業者の方へご相談のうえ、修理、交換をお願いします。

Q ほかの凍結防止対策はありますか？

A はい、二つ目の方法として、水抜き栓による凍結防止があります。

これは、普段利用しない屋外の水栓（蛇口）や、旅行などで長期間お家を留守にする場合などに効果的な凍結防止方法です。

この水抜き栓には、大きく分けて「手動式」と「電動式」の2種類があります。各ご家庭によって設置されているものが異なりますし、それぞれ操作方法も違いますのでご注意ください。

Q 水抜き栓にも種類があるということですが、どのようなものがあるのですか？

A まずは「手動式」の水抜き栓が設置されている場合ですが・・・、蛇口から水を出しながら水抜き栓のハンドルを右廻り（時計廻り）にしっかり最後まで回して下さい。蛇口からの水が止まれば水抜き完了です。

注意点として、水抜き栓のハンドルは、右側方向に回し始めると水道管から水が抜けて水が出ない状態になりますし、左側方向にハンドルを回せば徐々に通水し水が出るようになりますが、これを完全に開け閉めをせず中途半端に回して使用しますと、地下で水が漏れ「漏水」と同じ状態になりますので、ハンドルは止まるまでしっかりと廻すようご注意ください。

Q もうひとつの電動式はどのような操作になりますか？

「電動式」の場合は、まず操作盤の電源を「ON」にします。その後に「水抜き」や「止水」などと書かれたスイッチを押しますと電動により自動で水抜き栓の開け閉めがおこなわれます。蛇口から水が出ない状態になれば水抜きの完了です。操作方法は各メーカーなどにより異なりますので、詳しい操作方法については「取扱説明書」などによりご確認ください。

Q 凍結させないための方法を幾つか紹介していただきましたが、もしそれでも凍結させてしまった場合はどのように対応すればよろしいでしょうか。

A 保温用ヒーター線をコンセントに入れ忘れた場合などは、蛇口を少し開いた状態で、ヒーター線のプラグをコンセントに差し込むだけで、約10～15分ほどで水が出てくるようになると思います。

そのほか、蛇口付近での凍結の場合は、蛇口のハンドルを無理に回そうとはせず、凍結した部分にタオルなどを巻き、その上からお湯を少しずつ掛けるなどして融かして下さい。

また、水洗トイレなどが凍結した場合は、その部屋全体を暖房器具等でゆっくり暖め融かして下さい。

いずれの場合も、凍結箇所に熱湯などを直接かけたりしますと「亀裂やひび割れ」等の破損につながりますのでご注意ください。

また、どうしても水が出ない場合は、市が指定している「指定工事店」に連絡し対応を依頼ねがいます。

Q 凍結で水道管が破損した場合は、どのように対応すればよろしいですか。

A 応急措置として・・・、蛇口付近など水抜き栓以降の配管であれば水抜き栓を閉めることで漏水が止まります。

また水抜き栓よりも手前での漏水であれば、水道用のメーターボックス内にあります止水栓を閉めることで漏水を止めることができます。

しかし、これらはいくまでも漏水を止めるための措置ですので、その後、「指定工事店」に連絡し、修理を依頼してください。

水道管の凍結は天候によるもので、同時に、そして広域にわたって起こり得ます。そうすると、同じタイミングで凍結事故が重なるため、すぐに対応に行けないという状況が毎年ありますので、十分に注意して下さい。事前に凍結防止対策をして、この冬を乗り切っていきましょう。

Q & A それでは、ありがとうございました。

ありがとうございました。